



「虹」と「市」

小野地 健 (COE研究員・PD) ONOCHI Takeru

虹の現れたところには市をたてて売買をしなければならぬ、という慣習をご存知だろうか。この慣習を知ったときには驚いた。そして奇妙に思った。空を彩る鮮烈で神秘的な虹と、地上の人間の物欲が渦巻く乱雑な市の売買のイメージに大きな齟齬を感じたからだ。しかし、この実に不思議な慣習は日本古代、中世に実在した。

例えば、『日本紀略』長元三年(1030)七月六日「關白并春宮大夫家虹立。依世俗之説。有賣買事。」、『百鍊抄』寛治六年(1092)六月二十五日「高陽院立市。依虹蜺立也。先令諸道勘申。」保延元年(1135)六月八日「中宮廳前立市。依虹見也。」という具合だ。

なぜ虹という自然現象が現れると、人々は市をたて売買という行為を行ったのだろうか。しかも、国家的な法の命令ではなく、「世俗之説」によって行われるから、人々を無意識のうちに包み込んでいるような大きな規範、あるいはコスモロジーというべき次元へと思い切って踏み込んでみなければ、その慣習の理解はできない。

民俗学や歴史学の研究者たちは、そこへ踏み込み、魅力的な解釈を提示してきた。民俗学者の安間清は、虹は古代から竜蛇、水神として信仰され、財宝をもたらすものであるという観念があり、それがこの慣習の背後にあると推測した。中世史学者の勝俣鎮夫は、中世の人々は天の橋である虹を渡り天神精霊が降臨出現すると考え、虹を渡ってきた神を迎える行事が、市を立て売買を行うことだったと推測した。いずれも宗教現象や経済現象が混然となった事象として、虹と市を捉えている。

以上を踏まえ、文化人類学や記号論の視点から、虹と市の持つ論理を思い切って整理してみよう。まず、虹の普遍的といってよい大きな特徴は、多色であると観念されることだ。虹はその姿の中に複数の色というカテゴリーを包み込んでいる現象であり、そこには、多様なカテゴリーが一つの現象の中で接近し並存しているという「関係の過剰性」の論理が読み取れる。それは、虹が天の橋や道とされたり、近親相姦や両性具有を象徴することからも裏付けられる。それらは、本来は分離しているべきである天と地、近親の異性、男と女というカテゴリーが過剰に結びつくという論理を共有する。

一方、市の場を支配する市場交換の論理とは「関係を(その場で)清算する」ことだ。贈与と報酬交換が相手にその場で返せない贈り物を与えることで、負い目を持続させ関係を深めるのと対照的に、市場交換は相手から得たモノに対して、

即座に対価が支払われて清算され、負い目が持続することはない。相手と交換関係を結びながら、その場で関係を断ち切ってしまうのが市という場なのである。実際に古代、中世の市では歌垣が行われて男女が自由に交歓し盗品が売買されるなど、市場外での世俗的な諸関係をいったん断ち切ったうえで交換が行われる特殊な場であったことは、勝俣鎮夫が指摘している。

以上で整理した「関係の過剰性」としての虹と「関係を清算する」場としての市という論理を踏まえれば、なぜ虹が現れると市をたてるのか、一つの仮説を提示できる。

虹は「関係の過剰性」の出現であり、人間が作り上げた分類秩序である世界を混乱させ、亀裂を走らせる。特に分類秩序の極点である都の真ただ中に忽然と出現する虹は、なおさら脅威である。これに対して、人々は「関係を清算する」べく市をたてたのだ。つまり、虹が立ったところに市をたてる、という慣習は、虹によってもたらされた分類秩序の混乱に対して、人間の側からは、それとは正反対の論理である関係を清算し断ち切る市場交換の場としての市を作り出すことで、混乱を調停し秩序の回復をはかろうとしたのだ。

別の言い方をすれば、虹という自然現象がもたらした関係の過剰性(過剰な接近)を、人間側が関係を清算する(過剰な分離)行為によって媒介し、自然と人間との「適切な距離」を設定するということなのである。そこには、異常な自然現象をただ排除するのではなく、それと適切な関係を築こうとする人間と自然の交感のあり方が窺える。

人間は自らの生きる自然環境をも文化秩序へと組織し、改めて位置づけ、その一部とする。それによって、単なる生存条件として以上に、意味に満たされた緊密な関係として両者は結びつく。虹の立ったところに市をたてる慣習とは、人間の行為と自然とが、文化秩序の中に包み込まれ、ひとつの世界として緊密に結び合わされて響きあう、全体的社会事象として捉えられていたことを示しているのではないだろうか。

参考文献

- 小野地健 2007「虹と市 境界と交換のシンボリズム」『人文研究』160:29~76。
勝俣鎮夫 1986「売買・質入れと所有観念」朝尾直弘ほか編『日本の社会史 第4巻』181~209、岩波書店。
安間 清 1978『虹の話』おりじん書房。